

# 保育園自己評価

2025年度

アポロンキッズうえまち保育園

## ◎ 保育の計画の編成と実施に関する評価

【評価】 A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する						
項目	内 容	評 価				意見・改善策
		A	B	C	D	
保育 目 標 に つ い て	保育目標の具現化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか。	○				昨年度(開園2年目)に新たな全体的な計画を策定した。本年度は第三者評価受審を前提にさらに再度細部に渡って検討と修正を行った後に、保育を展開した。
	目標は、各施設や地域の特色を生かしているか。	○				
	目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか。	○				
	目標は、前年度の反省を生かしているか。	○				
	目標は、全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか。		○			
保 育 に つ い て	指導計画は乳幼児の実態に即して作成しているか。	○				新たな全体的な計画に基づき作成した指導計画に基づき、子育て支援員の指導を受けながら、個別適切な援助と支援を行った。
	保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っているか。	○				
	環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫しているか。	○				
	素材・用具を適切に活用しているか。	○				
	評価結果を基に、保育の改善に努めているか。	○				
日 時 程	1日の流れ(デイリープログラム等)は現行で良いか。	○				集団生活での基本的な生活で、発達に応じた個別対応を重視した。
行 事 に つ い て	行事の種類や実施回数は適切か。	○				PDCA サイクルを用いて職員同士で情報を共有する時間を重視し、行事等の終了後に評価と改善の話し合いを徹底した。
	行事のねらいを計画や実施に十分生かしているか。	○				
	乳幼児の活動範囲を明確にし、自主的・実践的な活動にしているか。	○				
	計画・実施・評価・改善の体制をとっているか。	○				
	保護者の願いや意見を取り入れているか。	○				
食 育 に つ い て	食育の計画を作成し、よりよい食習慣や心身の健康の基礎を培うよう努めているか。	○				土付き野菜などを用いた食育を毎月実施するなど、食に興味や関心を持った上で、個々に応じた食事ができるように配慮した。
	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう食育について見直しや改善を図っているか。	○				

◎ 全体的計画に基づく保育・教育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

【評価】 A：大変良い B：良い C：一部検討を要する D：改善を要する							
項目	内容	評価				意見・改善策	
		A	B	C	D		
経営・組織	分掌・体制	能率的、合理的な運営組織になっているか。	○				各々の役割を認識し、チーム保育の協力体制が得やすいように伝達方法や発信の手立てを工夫して行った。
		職務内容が明確で、協働できる体制になっているか。	○				
		職員の配置は適材・適所か。		○			
	運営	各種会議を適切かつ効率的に進めているか。	○				各々の勤務時間や就労体制の違いに配慮し、文書や資料類を充実させ意思伝達を図った。
		職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっているか。	○				
		打合せ回数、時間、内容は適切か。	○				
	年齢別クラス運営	年齢別・クラス目標は、保育目標や重点目標に基づいて設定しているか。	○				昨年度再設定した全体的な計画に基づいた年齢別クラス目標を元に設定した。小規模園の特長を生かして異年齢保育の機会を多く設ける中で、チーム保育による保育者各自の保育観を広げることを目指した。
		年齢別・クラス目標は、乳幼児の実態に即して設定しているか。	○				
		年齢別・クラス目標に迫る短期・長期のねらいは適切に設定しているか。	○				
		同年齢及び異年齢児間の効果的な活動の充実を図っているか。	○				
		意義や趣旨を理解したチーム保育を行っているか。	○				
		評価、資料（諸記録）を集積しているか。	○				
	保健・安全指導	年齢別・クラス経営に生かされるような具体的保健対策を講じているか。	○				健康観察による園児の体調管理に努めるとともに、感染症情報を掲示し、園医との連携を密に行なった。避難訓練と交通安全は視覚教材を活用する中で、実体験を重視した。
		避難訓練・交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか。	○				
		健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っているか。	○				
		乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか。	○				
研究・研修	園内	研究主題は、保育目標の具現化につながるものであるか。	○			保育目標の具現化と向上を目指し、自己評価による自己研鑽を推進した。 キャリアアップ・自己研鑽に係る研修に係る研修費用補助を継続するなど積極的な参加を促し、20種類の外部研修計画をすべて完了した。	
		園内研修の計画・運営は適切か。		○			
		研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか。	○				
		研究の実践による乳幼児理解が深まりを見せているか。	○				
	園外	各種研究会、研修会、講習会への参加態勢の充実を図っているか。	○				
		各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか。	○				

情報	乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取扱っているか。	○			同一建物に移転した保育事業部と密接な連携を行い、適正かつ適切な業務遂行を行った。	
	公文書收受、発送、処理を適切に行っているか。	○				
	各表簿は、適切な時間・方法で作成・処理しているか。	○				
施設・設備	施設内外・設備の安全点検を計画的に行っているか。	○			毎月の施設設備の安全点検実施により安全管理を進めた。防犯カメラを増設、警告掲示を建物入口に新設し、不審者対策を強化した。	
	遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管しているか。	○				
	不審者等に対応する周到な配慮を行っているか。	○				
	掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか。	○				
出納経理	各種会計を適正かつ適切に処理しているか。	○			設置・運営主体との連携下、適切に実施した。	
開かれた保育園づくり	施設間交流・連携	他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか。	○			連携施設8園からの情報を保護者と共有し、希望園児が他施設に向いて交流することができる機会を広報することを促進した。本園にも連携施設からの見学機会を設けることによって、交流活動をより活性化させる試みを開始した。
		他施設等の乳児児童生徒と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか。	○			
		指導者どうしが、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っているか。		○		
		参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解しているか。	○			
		日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしているか。		○		
	家庭・地域社会	参観時間を制限せず、保護者以外も対象にした参観日を設定しているか。		○		地域に根差した設置主体の人的資源を活用するとともに、設置主体主催での教育セミナーの隔月開催を開始した。
		保護者を含む地域の人材活用の時期・内容は適切か。	○			
		乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流しているか。	○			
		地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか。		○		
	子育て支援	園庭、保育室等を開放しているか。		○		夏祭りや親子ヨガ、親子遠足などの諸行事を通じて、子育て支援を行った。理事長や設置主体が医療系である長所を生かし、子育てについての情報発信に努めた。
地域に住む子どもどうし、あるいは親子と一緒に遊ぶことができるような場を設定しているか。			○			
「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定しているか。		○				
職員による育児に係る「子育て相談」は充実しているか。		○				
医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか。		○				

情報発信	園だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信しているか。	○				ホームページを改変充実させ、Instagramをはじめとする情報発信力を強化した。
	行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に周知しているか。	○				
外部評価	第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか。	○				第三者評価の受審で今後の課題を明確化するとともに、保育実践の振り返りに生かした。
	地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか。	○				

## 今後取り組むべき課題

### 1. 保育の質の向上

- ・保育理念を具現化できる最大の手立てがチーム保育である。保育の質のさらなる向上に向け、それぞれの保育感を認め合い、良いところを擦り合わせてこそ、本園が目指す方向性が確立する。その中で、お互いを信頼し、尊敬し、より良い関係性や保育に繋がる。より高次の連携模索が必要である。
- ・外部研修の参加が飛躍的に増え、各種行事や日々の保育に生かす場面が多くなったことは好ましい。その反面、伝達研修がまだまだ画一的でしかなく、クラス間を超えての共有に至っていない。従来の保育や方法に拘らず、その都度、職員間で情報を共有し思いを伝え合う場をさらに設けていきたい。
- ・開設3年目の本年は、諸行事をはじめとする日々の保育についての改善等を行う中、次年度への引継ぎは向上したものの、なお改善の余地がある。一人ひとりが園の構成員としての責任感を持ち、次年度に引き継いでいく体制を確立させることで、より良い保育を築き上げる土壌の完成が求められる。

### 2. 保育環境のさらなる充実

- ・子ども個々の発達段階に即応した手作りおもちゃや遊具類の整備を進め、環境面での充実を図った。経験に基づき、これらの制作ができる職員からの技術面の継承を計画的に進めることが求められる。
- ・導入した運動器具類と本園手作りのものを組み合わせて運動面からの活動に活用することができた。自由あそびと体育あそびの内容の連続性をさらに進め、発表活動に生かしていくことが重要である。

### 3. 業務のさらなる効率化

- ・保育関連帳票類のさらなる電子化を推進し、記録情報の共有および書類作成の時間短縮を進める。
- ・昨年度に引き続き本年度も新たに導入した帳票類について、さらに本園に合ったものに改善を加えるとともに、ICTシステム導入範囲を広げることによる業務の効率化を検討し遂行していく。
- ・設置主体と運営主体との会計担当者の連携強化に努め、さらなる会計関連業務の効率化を図っていく。

### 4. 地域とのつながりの充実

- ・高齢者福祉施設への訪問や地域行事への参画などにより、今後も地域に根ざした保育を推進する。
- ・事業所内保育施設である本園の特色を生かしつつ、隔月での教育セミナーを開始し3回実施したが、地域の課題に直結した課題や内容に配慮し、地域連携を生かした取り組みに発展継続させる。
- ・小規模園ならではのボランティア受け入れや職業体験受け入れに向けた取り組みを促進する。

2026年3月31日

園長 東田 充司